

「アレルギーの臨床」に寄せる - 834 -
矢追インパクト療法による姿勢の矯正

【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

年を取ってくると、骨粗鬆症や脊柱管狭窄症により次第に円背・亀背・側弯等になってきて、身長が減り、測りづらくなります。筋力の衰えによる frailty です。これらを積極的に矯正する手段は現在ありません。考えられてもいません。従って保険収載による点数化などももちろん存在しません。でもこれらを矯正すれば諸臓器の圧迫がとれ、肩こり・腰痛から解放され、歩行が楽になり、色々様々の疾患から解放されると思います。私の遣っている治療は EBM ではなく FBM (Fact Based Medicine) です。この治療は骨を治すのではなく、筋力や腱・滑膜・骨膜等軟部組織を回復する刺激なのです。筋力や軟部組織を回復すれば、骨への負担が減り、椎骨等も自然に復旧し、疼痛から解放されて来るものと思います。整形外科学会では骨サイドからの治療を主とするアプローチです。両サイドからのアプローチがベストと思いますが、現段階はそこまで至っていません。筋肉を補強する治療法はリハビリテーション・マニピュレーション等ありますが、長期間を要し、余り効果的とは言えません。それに引き換え矢追インパクト療法はこの療法の前後に眼裂の大きさの変化、表情・血色の变化・身長の変化を観察します。気分の変化は本人の言を待たねばなりませんから、色々ですが、皮内注射後 10 分も経てば、概ね〈気分がよくなった〉と表現します。

矢追インパクト療法は日本臨床内科医学会で何回も発表された故矢追博美先生 (平成 27 年 2 月没) が今現在行われているアレルギー性鼻炎・喘息・アトピー性皮膚炎等に対する減感作療法の、長期間を要し、効果のなさ、薄さ、危険性を無くすべく、かつもっと効果的たらんと、現に使用できる数種アレルギーエキスを、アレルギー希釈液 (鳥居) を用いて、反対に 10 億倍～1 兆倍などに超微希釈し、皮膚浅層 (皮内) に 0.001～0.005 cc 注射を数個～数十個クワデルを作るだけの簡単な療法です。子供の喘息・アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎等に利用してきましたが、大人の疼痛性関節疾患等色々な病気に効くことが解かってきています。

この作用は人間には不利益反応と考えられている神経軸索反射を利用し、利益反応に変える antidromic (逆走) 刺激による体温上昇 (筋肉中の脂肪酸の燃焼) によるものと思います。不利益反応であるアナフラトキシンを誘発し、アナフィラキシー反応を起こさない程度の弱刺激を皮膚浅層 (皮

内) に数個～数十個与える療法です。この療法を定期的に行っていると血中 TG が漸減していきます。体内で中性脂肪を燃焼させないで糞便あるいは尿中に排出させて血中 TG を減少させる内服薬の経路とは違います。体内では生理的経路で燃焼させ、減少させる健康的な経路です。脂肪酸を体内で生理的に燃焼させることは、基礎体温が上昇し、筋肉運動をすることと同じであり、適度な疲労感が湧き、良く寝られるようになり、食欲が付き、筋力が付き、関節の可動性が高まり、基礎代謝が高まり、皮膚はきめ細かくなり、湿疹皮膚炎 (アトピー性皮膚炎・自家感作性皮膚炎・老人性脂漏性湿疹等) は消失し、爪の伸びが早くなり、頭髪の伸びも早くなり、増毛もします。姿勢の矯正も起こります。即ち若返り現象が起こるのです。頬に打つと歯肉炎・歯槽膿漏・歯痛・顎関節症等に効果有ります。目に対する効果は本誌 (2016 年 4 月号) に掲載しました。ドライアイ・涙目・視力改善にも役立ちます。眼瞼板とか眼輪筋の活性化にもなっています。閃輝暗点発作中とその後の片頭痛をその場で救えます。後頭部に打つと頭蓋骨を超え、視覚野を刺激している兆候も見られます。指のヘバーデン結節変形は治らいと言う整形外科界の常識ですが、それにもトライしています。痛くてピアノも弾けなくなったのが弾けるようになったと喜ぶ人、注射は痛いけど少し変形が治ってきたと喜んでくれる方もあります。中学の女性教師で字が書けなくなって困っていたのが、一回で治ったと喜ぶ人も居ます。面白いことに指先を矢追インパクト療法で刺激していると、腸の蠕動運動が良くなってきて蠕動音が盛んに聞き取れるようになります。何か関連性があるものと思います。屈伸筋腱の末端部と関節包が刺激を受け、凝り固まった慢性炎症が少し回復するのではないかと思います。無菌性アキレス腱付着部炎も整形外科的には難渋しますが、矢追インパクト療法は抜群に効果あります。他の腱炎筋炎においてもしかりです。モートン病も親趾裏の種子骨炎も良く治ります。親指の腱鞘炎であるドケルバン病、手の中手指節 (MCP) 関節・手首関節・膝関節等の腫脹・疼痛・発赤の甚だしい関節リュウマチにも著効します。炎症が相当に風ぐのであろうと思います。これらは飽く迄もそれらの小さな筋腱を刺激し、炎症でそこに蟠っている脂肪酸を燃焼させているためだと思います。これらは飽く迄も Deep inflammation を救うために artificial shallow inflammation を作ってやるために起こる現象と思います。

頭部にやると頭皮を輪が広がるように広がって、頭皮を刺激しているのが解かります。増毛に役立ちますが、頭蓋骨を超えて脳内に刺激が浸透してゆくのも実感できます。しばらくして頭皮痛が消えると爽やかになります。これを利用するとある種の頭痛・耳鳴り・眩暈に効果有ります。うつ病・認知症・パーキンソン病等精神神経疾患にも効果が期待されます。